

科目名	【コア1】 JMLAの活動とヘルスサイエンス情報サービス専門職
時間	90分
科目概要	JMLAの活動と自らの業務との関わりをとおして、ヘルスサイエンス情報サービス専門職の専門性を学ぶ。
到達目標	専門職としてヘルスサイエンス情報サービスを遂行し発展させるために、ヘルスサイエンス情報サービス専門職の専門性とは何かを理解し、自らの業務とJMLA活動を基盤としたキャリアプランを設定する。
行動目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「医学図書館員のための倫理綱領」を理解し、ヘルスサイエンス情報サービス専門職の規範を説明できる。</li> <li>2. 日本のヘルスサイエンス情報サービスの現況と課題を説明できる。</li> <li>3. 日本のヘルスサイエンス情報サービス機関と専門職の現況を説明できる。</li> <li>4. JMLAの活動と社会貢献について説明できる。</li> <li>5. 自らの日常業務と関連づけてJMLAの存在意義を説明できる。</li> <li>6. ヘルスサイエンス情報サービス専門職として、自らのキャリアプランを説明できる。</li> </ol>
講義内容	<p>A. 情報専門職の倫理 [15分]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) JMLA「医学図書館員のための倫理綱領」を読む。</li> </ol> <p>B. 日本の現状と課題 [30分]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) ヘルスサイエンス情報サービスを概観する。</li> <li>2) ヘルスサイエンス情報サービスの資源を復習する。</li> <li>3) ヘルスサイエンス情報サービス機関と専門職の種類を知る。</li> <li>4) 近接する専門職(医療秘書, 医書出版など), 医療機関の組織・構成, 等の関連知識を得る。</li> </ol> <p>C. JMLA活動と会員の関わり [30分]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 沿革と目的を理解する。</li> <li>2) 組織と会員の位置づけ、会員の権利と義務を把握する。</li> <li>3) 教育・研究プログラムと認定資格(JHIP)を知る。</li> </ol> <p>D. まとめ [15分]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 自らの業務の専門性とJMLA活動のかかわりを考える。</li> <li>2) キャリア目標を立て、そのための行動計画を考える。</li> </ol>
課題例	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 自らのキャリア目標, キャリアプラン, そのための行動計画を作成する</li> <li>2) お互いに発表して議論する</li> </ol>
参考資料	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 津田良成. 医学情報を担当する今の図書館員諸君へ: 今後の厳しい状況に取り組むために. (JMLA 叢書; 1). 東京: 日本医学図書館協会; 2000.</li> </ol>

	<p>2) 特定非営利活動法人日本医学図書館協会「要覧」2013年版。</p> <p>3) 特定非営利活動法人日本医学図書館協会 専門職能力開発委員会. 専門職能力開発プログラム最終報告書. 2014.</p> <p>4) 鈴木正紀. 進化をつづけるライブラリアンになるために. 情報の科学と技術. 2011; 61(4): 146-153.</p> <p>5) 科学技術・学術審議会 学術分科会 研究環境基盤部会 学術情報基盤作業部会. 大学図書館の整備について(審議のまとめ):変革する大学にあって求められる大学図書館像. 2010.</p> <p>6) 加藤信哉. 大学図書館員の育成. 名古屋高等教育研究. 2013; 13: 71-86.</p> <p>7) 橋本鉦市編著. 専門職養成の日本的構造. 東京: 玉川大学出版部; 2009.</p>
--	--

2014-03-31

『専門職能力開発プログラム最終報告書 (提案)』

2017-02-24

改訂: 「JMLA 活動と会員の関わり」の詳細の順番の入れ替え; 課題を2パートに切り分け(酒井由紀子)

科目名	<b>【コア 2】</b> 医学の学問体系と医学用語の基礎知識
時間	180 分
科目概要	医学の起源および学問体系, 医学用語および MeSH/NLMC の基礎知識を解説する。
到達目標	学問としての医学の起源と発展についての梗概が理解できる。 学問体系や診療科目に沿った医学用語と Medical Subject Headings (以下, MeSH) / National Library of Medicine Classification (以下, NLMC) を実務で用いるための基本となる知識や技術, 活用方法が理解できる。
行動目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. サイエンスとしての医学, および医療の起源の梗概を説明できる。</li> <li>2. 基礎及び臨床科目や病院の診療科目の概要を説明できる。</li> <li>3. 医学用語の構成要素を説明できる。</li> <li>4. 基本的な医学用語・解剖学用語を理解し, 実務で用いることができる。</li> <li>5. MeSH/NLMC の基本構成と索引方法を理解し, 実務で用いることができる。</li> <li>6. 選書・分類・レファレンス等主題分析の必要な場面において, MeSH/NLMC を適切かつ効率的に活用することができる。</li> </ol>
講義内容	<p>A. 医学概論 [90 分]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医学・医療の起源と位置づけ(年表史ではなく, 項目 B・C・D を意識した梗概)</li> <li>2. 人体のなりたち</li> <li>3. 解剖・生理の基礎知識(運動器系, 呼吸器系, 循環器系, 消化器系, 神経系, 内分泌系, 泌尿・生殖器系, 感覚器系を構成する器官とその働き)</li> </ol> <p>B. 医学用語の基礎知識 [20 分]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 用語の特徴・規則性・一般用語と学術用語の対照</li> <li>2. 診療科目名・医学の細分科目名</li> <li>3. 代表的な疾病名・症状名・化学物質名</li> </ol> <p>C. MeSH/NLMC [30 分]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. なりたちと構成・ルール等の概説</li> <li>2. 項目 B・C との対照関係</li> <li>3. 医学用語シソーラスと MeSH の相違点</li> <li>4. MeSH/NLMC の活用法</li> </ol> <p>D. まとめと演習 [40 分]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医学図書館の現場を想定したケーススタディ ※以下, 実習例 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 図書の奥付・序文・目次から NLMC/MeSH を考える(選書・分類における主題分析)</li> <li>2) 利用者からの質問内容に該当する NLMC/MeSH を考える(レファレンスにおける質問分析)</li> <li>3) 論文に付された MeSH のみを見て, どのようなことが書かれているのかをグループで検討した後に実際の論文に目を通す。また NLMC と MeSH という 2 種の主題付与ツールの特性や実務での</li> </ol> </li> </ol>

	活用場面について討議する(文献調査業務技術等の向上)。
事前課題	所属組織(もしくは身近にある総合病院)の診療科, 医科大学等医学の教育機関に所属する場合は基礎医学および臨床医学に関わる設置科目名を書き出す。研修当日は, 記載したものを持参すること。
参考資料	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 井内康輝編. 医学概論—医学生が学ぶべき生命・医療倫理と医学史. 東京:篠原出版新社;2012.</li> <li>2) 後藤由夫. 医学概論. 東京:文光堂;2004.</li> <li>3) Bynum WF, Bynum H (鈴木晃仁, 鈴木実佳訳). Medicine:医学を変えた70の発見. 東京:医学書院;2012.</li> <li>4) Dobson M (小林力訳). Disease:人類を襲った30の病魔. 東京:医学書院;2010.</li> <li>5) 百島祐貴. ペニシリンはクシャミが生んだ大発見:医学おもしろ物語 25話(平凡社新書 508). 東京:平凡社;2010.</li> <li>6) Drake RL et al (塩田浩平訳). グレイ解剖学アトラス. 原著第2版. 東京:エルゼビア・ジャパン;2015.</li> <li>7) Netter FH (相磯貞和訳). ネットー解剖学アトラス. 原著第6版. 東京:南江堂;2016.</li> <li>8) Martini FH, Timmons MJ, McKinley PM et al. カラー人体解剖学:構造と機能:マイクロからマクロまで. 新潟:西村書店;2003.</li> <li>9) 坂井建雄ほか. カラー図解人体の正常構造と機能:全10巻縮刷版. 改訂第3版. 東京:日本医事新報社;2017.</li> <li>10) 後藤昇, 楊箬隆哉. しゅくみが見える体の図鑑. 東京:エクスナレッジ;2012.</li> <li>11) Smith GL, Davis PE (裏田武夫訳). プログラム学習による医学用語の学び方. 東京:医学書院;1985.</li> <li>12) Dennerll JT. Medical Terminology : A Programmed System Approach, 10<sup>th</sup> ed. Stamford, Conn.:Cengage Learning;2009. (第4版は『プログラム学習による医学用語の学び方』の原著)</li> <li>13) 津波古澄子, Zoboski M. 基本の101語を組み合わせる! 学ぶ医学英語:分解方式で簡単!臨床現場で活用できる!. 東京:日本看護協会出版会;2011.</li> <li>14) 藤枝宏壽ほか. これだけは知っておきたい医学英語の基本用語と表現. 第3版. 東京:メジカルビュー社;2013.</li> <li>15) 日本解剖学会. 解剖学用語. 改訂13版. 東京:医学書院;2007.</li> <li>16) 日本医学会医学用語管理委員会編. 日本医学会医学用語辞典:英和. 第3版. 東京:南山堂;2007.</li> <li>17) 独立行政法人科学技術振興機構. 日化辞 Web[internet]. <a href="http://jglobal.jst.go.jp/advancedsearch/#t=4">http://jglobal.jst.go.jp/advancedsearch/#t=4</a></li> <li>18) NLM Classification.U.S. National Library of Medicine [internet]. <a href="https://www.nlm.nih.gov/class/">https://www.nlm.nih.gov/class/</a></li> <li>19) U.S.National Library of Medicine. Medical Subject Headings Home Page [internet]. <a href="https://www.nlm.nih.gov/mesh/">https://www.nlm.nih.gov/mesh/</a></li> <li>20) 米国国立医学図書館分類法&lt;2016年版&gt; 日本語版, 東京:日本医学図書館協会;2017.</li> </ol>

2014-03-31 『専門職能力開発プログラム最終報告書（提案）』  
2017-02-28 改訂：参考資料 1)の追加；時間配分の変更（山田久夫/阿部信一）  
2018-03-08 改訂：参考資料 20)の追加（山田久夫/阿部信一）

科目名	【コア3】 医学資料論
時間	90分
科目概要	ヘルスサイエンス分野の専門家向けの電子版および印刷版の情報資源の体系と、情報ニーズに適した情報資源の種類と特徴について学ぶ。
到達目標	ヘルスサイエンス分野の専門家の臨床、研究、教育活動と各フェーズで生産され、流通・利用される医学情報資源の特徴と具体的な資料の種類(学会発表抄録、雑誌記事・論文、図書、Web サイト)を理解し、その利用法を習得する。
行動目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. よく用いられる日本語および英語の情報資源とその特徴を説明することができる。</li> <li>2. ヘルスサイエンス分野の教育でよく用いられる日本語および英語の情報資源とその特徴を説明することができる。</li> <li>3. ヘルスサイエンス分野における研究に適した情報資源を選択し、検索・入手することができる。</li> <li>4. 重要な情報媒体である医学雑誌の特徴と、インパクトファクターなどの評価指標、オープンアクセス化の状況について理解し、情報サービスで購読契約し提供する雑誌を選定することができる。</li> <li>5. データベースとして提供されている医学情報資源の特徴と利用のしかたを理解し、情報サービスのために選定することができる。(PubMed、EMBASE、BIOSIS、CINAHL など)</li> </ol>
講義内容	<p>A. 学術コミュニケーションの現状と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床医、研究者間の情報流通のチャンネル(学会や雑誌など)。</li> <li>・学術雑誌の歴史と、学術コミュニケーションの発展の歴史。</li> </ul> <p>B. ヘルスサイエンス分野の学術情報資源の特徴と利用法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一次情報、二次情報の種類と内容、利用法。</li> <li>・電子媒体の情報と紙媒体の情報の特徴と利用上の特質。 (PubMed などの文献データベース、UpToDate などのエビデンスデータベース、今日の診療などの診療支援ツール、医薬品集などを、必要とニーズによって使い分ける、など)</li> </ul> <p>C. ヘルスサイエンス分野の学術情報資源の評価と選定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者(学生、研究者、臨床医)の情報ニーズにより、提供できる適切な情報媒体を評価し選定する。</li> <li>・情報評価の基準(インパクトファクター、h-index など)。</li> </ul> <p>D. インターネット上の情報の評価と利用法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・データベースの選択。</li> <li>・検索の基本的な手法。</li> <li>・Google Scholar 等の誰でも利用できるデータベース(検索エンジン)の特徴と注意点。</li> </ul>
参考資料	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 裏田和夫. 専門職への道:医学図書館入門者への学習ガイド. 医学図書館. 1977;24(1,2):26-31.</li> <li>2) 山口直比古. 専門職への道:Handbook の切り開いた世界. 医学図書</li> </ol>

	<p>館. 2007;54(1):20-26.</p> <p>3) 山口直比古. Index Medicus の誕生. 医学図書館. 1981;28(1):1-10.</p> <p>4) 山口直比古. 忘れられた Index Medicus: MEDLARS への道. 医学図書館. 1989;36(2):54-62.</p> <p>5) 山口直比古. 科学雑誌の誕生: 17 世紀ヨーロッパの科学革命と情報の流通. 薬学図書館. 2010;55(2):156-163.</p> <p>6) Harrison T (小沢元彦訳). ハリソン物語 : かくして「ハリソン」はグローバル・スタンダードになった. 東京: メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2003.</p> <p>7) Wakeley PJ, May RS 共編 (津田良成, 菅利信他訳). ヘルスサイエンス図書館員の基礎知識. 東京: 日外アソシエーツ; 1986.</p> <p>8) Morton LT, Godbolt S ed. Information sources in the medical sciences. 4<sup>th</sup> ed. London: Bowker-Saur; 1992.</p> <p>9) Boorkman JA. Et al. ed. Introduction to reference sources in the health sciences. 4<sup>th</sup> ed. New York: Neal-Schuman; 2004.</p> <p>10) Cleveland AD, Cleveland DB. The organization of medical knowledge. In: Health informatics for medical librarians. Chicago: Medical Library Association; 2009.</p> <p>11) Kronick DA. The literature of the life sciences: reading, writing, research. Philadelphia: ISI Press; 1985.</p> <p>12) Past, present, and future of biomedical information. Bethesda: National Library of Medicine; 1987. (NIH Publication No.88-2911).</p> <p>13) Blake JB ed. Century of Index Medicus 1879-1979. Bethesda: National Library of Medicine; 1980. (NIH Publication No.80-2068).</p> <p>14) Kronick DA A History of scientific &amp; technical periodicals; the origins and development of the scientific and technical press, 1665-1790. 2<sup>nd</sup> ed. Metuchen, N.J. The Scarecrow Press; 1976.</p> <p>15) Warren KS ed. Coping with the biomedical literature: a primer for the scientist and the clinician. New York: Praeger; 1981.</p>
--	--

2014-03-31 『専門職能力開発プログラム最終報告書(提案)』

2017-03-17 改訂:「科目概要」「講義内容」の表現変更(山口直比古)

2018-03-20 改訂:参考資料を最新資料に修正(山口直比古)

科目名	<b>【コア 4】</b> 医学図書館の利用者の特徴とサービス
時間	90 分
科目概要	ヘルスサイエンス分野の情報利用者(学生、研究者、医療従事者、患者、一般市民等)の背景、特徴および行動パターンを学び、そこから必要とされる情報サービスとその特性について学ぶ。
到達目標	医学情報を必要とする利用者のタイプ、情報ニーズ、行動パターンを把握するとともに、それらの利用者に提供する医学情報サービスの現状を理解する。さらに情報化社会における医学情報サービスのあるべき姿、将来像について考える力を身に付ける。
行動目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医学図書館の利用者の特徴とニーズを理解できる。</li> <li>2. 医学図書館が提供しているサービスの現状を把握できる。</li> <li>3. 医学図書館の利用者の情報探索行動を理解できる。</li> <li>4. 医学図書館の利用者の特徴、ニーズ、情報行動と情報サービスの現状を照合することで、サービスをクリティカルに検討できる。</li> </ol>
講義内容	<p>A. 医学情報の需要 [20 分]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医学情報を必要とする利用者</li> <li>2. 医学情報の利用目的</li> <li>3. 医学情報の入手場所</li> </ol> <p>B. 医学情報の提供 [20 分]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 機関・組織</li> <li>2. サービス</li> <li>3. 資料</li> <li>4. オンラインサービス</li> </ol> <p>C. 利用者別情報探索行動 [20 分]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生</li> <li>2. 研究者</li> <li>3. 医療従事者</li> <li>4. 患者・一般市民</li> </ol> <p>E. 医学情報をとりまく環境の変化 [15 分]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育</li> <li>2. 研究</li> <li>3. 診療</li> </ol> <p>F. 医学図書館の役割とあり方 [15 分]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現状・課題の把握</li> <li>2. 将来像</li> </ol>
参考資料	(後日更新予定)

2014-03-31 『専門職能力開発プログラム最終報告書(提案)』

2017-03-17 改訂:「科目概要」、「到達目標」、「行動目標」、「講義内容」の表現変更;「参考資料」の更新・追加;「講義内容(詳細)」の削除(鈴木孝明)

2018-03-29 改訂:「科目概要」、「到達目標」、「行動目標」、「講義内容」改訂;「参考資料」の更新のため一時的に削除(児玉閲)



科目名	<b>【コア 5】</b> PubMed/医中誌 Web 検索初級
時間	PubMed 90 分, 医中誌 Web 90 分
科目概要	PubMed と医中誌 Web の検索演習
到達目標	医学関連分野の代表的データベース PubMed と医中誌 Web の基本的な操作と仕組みを理解する
行動目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. PubMed と医中誌 Web の概要が説明できる。</li> <li>2. PubMed と医中誌 Web で基本的な検索ができる。</li> <li>3. 自由語検索とシソーラス検索の違いが説明できる。</li> <li>4. 論理演算子を用いた検索ができる。</li> <li>5. 文献の入手法を説明できる。</li> <li>6. ILL 業務の書誌事項確認に対応できる。</li> </ol>
講義内容	<p>A. PubMed, 医中誌 Web の概要</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 収録範囲・対象</li> <li>2) 更新頻度</li> <li>3) インターフェース</li> </ol> <p>B. 自由語検索</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 簡易な主題からの検索</li> <li>2) 既知事項を組み合わせた検索</li> </ol> <p>C. シソーラス検索</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) シソーラスの概念</li> <li>2) 自動マッピング</li> <li>3) シソーラス参照方法</li> </ol> <p>D. 履歴検索</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 論理演算子</li> <li>2) PubMed Advanced Search Builder</li> </ol> <p>E. 基本的な絞り込み</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 論文種類</li> <li>2) 出版年</li> <li>3) 年齢・性別・言語</li> </ol> <p>F. 検索結果の見方</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 表示されている情報</li> <li>2) 検索結果の並び替え</li> </ol> <p>G. 検索結果の印刷, メール送信, ダウンロード, クリップボード</p> <p>H. 書誌確認</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) Single Citation Matcher</li> <li>2) 書誌確認画面</li> </ol> <p>I. 収載誌検索</p> <p>J. 文献入手</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 電子ジャーナル(機関契約・無料・有料)</li> <li>2) 冊子体</li> <li>3) ILL</li> <li>4) 所属機関の契約, 設定環境</li> </ol>

参考資料	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 山口直比古. 忘れられた Index Medicus MEDLARS への道. 医学図書館. 1989;36(2):54-62.</li> <li>2) 医学中央雑誌刊行会. 創立 100 周年記念誌. 東京:医学中央雑誌刊行会; 2003.</li> <li>3) 岩下愛, 山下ユミ. 図解 PubMed の使い方 : インターネットで医学文献を探す. 第 7 版. 東京:日本医学図書館協会; 2016.</li> <li>4) 諏訪部直子, 平紀子著. わかりやすい医中誌 Web 検索ガイド : 検索事例付. 東京:日本医学図書館協会; 2013.</li> </ol>
------	--

- 2014-03-31 『専門職能力開発プログラム最終報告書(提案)』
- 2017-03-17 改訂:「時間」の配分変更;「行動目標」の一部削除と表現変更;「講義内容」の表現変更・内容修正;「参考資料」の更新(諏訪部直子/笹谷裕子)
- 2018-03-19 改訂:「到達目標」の表現変更;「講義内容」の表現変更、項目削除(清水ゆかり/笹谷裕子)

科目名	【コア6】 一般市民への医療・健康情報提供
時間	90分
科目概要	一般市民への医療・健康情報提供
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 患者や一般市民に特有の医療・健康情報ニーズを理解する。</li> <li>2. 情報行動の特徴と、情報資源の選択及び提供方法について理解する。</li> <li>3. 患者や一般市民への情報提供にあたり、コア研修の全科目が基礎知識として必要であることが理解する。</li> <li>4. 以上を踏まえて、一般市民に対する医学図書館員の役割を認識する。</li> </ol>
行動目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本の患者や一般市民の医療・健康情報ニーズとそれに対応する情報サービスの実態と課題を説明できる。</li> <li>2. 患者や一般市民が用いるヘルスサイエンス分野の用語の特徴を理解し、質問内容を、医学用語を使って説明できる。</li> <li>3. 患者や一般市民のリテラシーレベルを、レファレンスインタビューから推測できる(コミュニケーション能力)。</li> <li>4. 患者や一般市民への情報の提供に特有の、倫理的・法的・社会的問題について理解し、説明できる。</li> <li>5. 患者や一般市民がよくアクセスしているヘルスサイエンス分野の情報資源の種類(Web サイト、家庭の医学、健康情報雑誌、新聞、テレビ、ラジオ、医師・看護師・薬剤師、家族や友人)と特徴について述べるができる。</li> <li>6. 患者や一般市民向けの代表的な情報資源の使い方を説明できる。</li> </ol>
講義内容	<p>A. 医学・健康情報を取り巻く環境[15分]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会背景: 医療法、健康増進法、がん対策基本法、2025年問題等</li> <li>2. 図書館の変化: 課題解決型、地域貢献</li> </ol> <p>B. 情報サービス実施の実態[15分]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大学図書館</li> <li>2. 患者図書室</li> <li>3. 公共図書館</li> <li>4. 図書館の種類による収集資料の違い</li> </ol> <p>C. 患者や一般市民の医療・健康情報ニーズ[20分]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. どのような情報が求められているか(利用者の置かれている状況によりニーズは異なる。)</li> <li>2. なぜ医療・健康情報を求めるのか <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 医療情報の非対称性</li> <li>2) ヘルスリテラシー不足によるヘルスコミュニケーションの不成立</li> </ol> </li> </ol> <p>D. 患者や一般市民がアクセスしている情報の種類と特徴[10分]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 家庭医学書</li> <li>2. 診療ガイドライン(一般向け/医療者向け)</li> <li>3. 闘病記、介護記</li> <li>4. 健康雑誌</li> <li>5. 新聞、テレビ、ラジオ</li> <li>6. Web サイト</li> <li>7. パンフレット</li> </ol>

	<p>8. 人(家族、友人、医療者)からの情報</p> <p>E. レファレンス[20分]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 症状・病名等を医学用語に置き換えて、情報源を利用する</li> <li>2. インタビューおよび情報提供時のポイント <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 相談者のリテラシーレベルを把握する</li> <li>2) 相談者が知りたいことを理解する(バックグラウンド/フォアグラウンド)</li> <li>3) 法的、倫理的、社会的問題を理解する</li> <li>4) 利用者のニーズを予測したナビゲーション</li> </ol> </li> <li>3. レフェラルサービス</li> </ol> <p>F. 患者や一般市民へのサービスにおける医学図書館員の役割(まとめ)</p> <p>※A-1 は、事前学習を課し、解説を兼ねて講義を行う。  ※図書館における実践事例については、配布資料等で適宜紹介する。</p>
<p>参考資料</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 日本医学図書館協会医療・健康情報ワーキンググループ. やってみよう図書館での医療・健康情報サービス. 第3版. 東京: 日本医学図書館協会; 2017.</li> <li>2) アンドレア・ケニヨン, バーバラ・カシーニ. 公共図書館員のための消費者健康情報ガイド. 東京: 日本図書館協会. 2007.</li> <li>3) 奈良岡功, 山室真知子, 酒井由紀子. 健康・医学情報を市民へ. 東京: 日本医学図書館協会; 2004.</li> <li>4) 伊勢美子. 患者が求める医学健康情報. 医学図書館. 1994; 41(3): 331-5.</li> <li>5) 山口直比古. 患者図書室における情報提供 患者・医師間における情報の非対称性緩和のために. 医療安全. 2009; 6(4): 42-5.</li> <li>6) ヘルスコミュニケーション学会. <a href="http://healthcommunication.jp/">http://healthcommunication.jp/</a> [accessed 2017-02-28]</li> <li>7) 緒方裕光, 諏訪部直子, 磯野威. メディア(図書・雑誌・テレビ)における医学・健康情報流通量調査. 患者/家族のための良質な保健医療情報の評価・統合・提供方法に関する調査研究 平成16年度 総括・分担研究報告書. 2005; 7-15.</li> <li>8) 緒方裕光, 諏訪部直子, 磯野威. メディア(新聞・ラジオ)における医学・健康情報流通量調査. 患者/家族のための良質な保健医療情報の評価・統合・提供方法に関する調査研究 平成17年度 総括・分担研究報告書. 2006; 9-16.</li> <li>9) 河合富士美, 江口愛子, 牛沢典子, 諏訪部直子, 真下美津子, 向田厚子, 山口直比古. 一般市民の医学・医療情報需要調査. 医学図書館. 2002; 49(4): 376-382.</li> <li>10) 酒井由紀子ほか. 日本における健康医学情報の探索行動: 2008年および2013年調査の結果. 日本図書館情報学会誌. 61(2): 2015; 82-95.</li> <li>11) 三輪真木子ほか. 公立図書館医療健康情報サービスへの提案: がん患者のインタビュー調査から. 薬学図書館. 62(1): 2017; 21-31.</li> <li>12) 厚生労働白書平成26年版 健康長寿社会の実現に向けて～健康・予防元年～[Internet].</li> </ol>

	<p><a href="http://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/kousei/14/index.html">http://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/kousei/14/index.html</a> [accessed 2017-02-28]</p> <p>13) 石井保志. 闘病記文庫入門. 東京: 日本図書館協会; 2011.</p> <p>14) Minds ガイドラインライブラリ [Internet]. <a href="http://minds.jcqh.c.or.jp/">http://minds.jcqh.c.or.jp/</a> [accessed 2018-03-20]</p> <p>15) 北澤京子. 患者のための医療情報収集ガイド. 東京: 筑摩書房; 2009.</p> <p>16) インターネット上の医療情報の利用の手引き. 日本インターネット医療協議会 [Internet]. <a href="http://www.jima.or.jp/userguide1.html">http://www.jima.or.jp/userguide1.html</a> [accessed 2017-02-28]</p> <p>17) 国立国語研究所「病院の言葉」委員会. 病院の言葉を分かりやすく: 工夫の提案. 勁草書房; 2009.</p> <p>18) 患者図書マニュアル編集委員会. 患者医療図書サービス: 医療情報を中心とした患者図書室. 東京: 日本病院図書室研究会; 2004.</p> <p>19) 中山健夫. 健康・医療の情報を読み解く: 健康科学への招待. 第2版. 東京: 丸善; 2014.</p> <p>20) 福田洋 ほか編著. ヘルスリテラシー: 健康教育の新しいキーワード. 東京: 大修館書店; 2016.</p> <p>21) 健康を決める力 [Internet]. <a href="http://www.healthliteracy.jp/">http://www.healthliteracy.jp/</a> [accessed 2017-02-28]</p> <p>22) 「統合医療」情報発信サイト [Internet]. <a href="http://www.ejim.ncgg.go.jp/pro/">http://www.ejim.ncgg.go.jp/pro/</a> [accessed 2017-02-28]</p> <p>23) 西河内靖泰, 石井保志. 患者当事者の利用に耐える健康・医療情報サービス構築への提言 - 公共図書館を例として -. 広島女学院大学国際教養学部紀要. 3: 2016; 35-45.</p>
2014-03-31	『専門職能力開発プログラム最終報告書 (提案)』
2017-03-17	改訂: 「到達目標」の表現変更; 「講義内容」の表現変更・追記; 「参考資料」の更新・追加 (市川美智子)
2018-03-20	改訂: 「参考資料」の更新・追加 (市川美智子)